

実践『ペルソナ』通信 (No.1)

「実践女子大生におけるお昼ごはんの実態」に関する調査結果

～「お弁当持参」が4割以上、「学外食」での昼食費用は、901円以上が7割以上～

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「お昼ごはんの実態」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は52サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」、「経営学（担当：篠崎香織）」、「マーケティング（担当：斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに所属する実践女子大生は、どのようなランチタイムをすごしているのか、「お昼ごはん」の実態について、52サンプルの実践女子大生から回答を得ました。

お昼ごはんの形態について、最も多かったのは、「お弁当持参」が44%と最も高い割合となりました。以下、「コンビニで購入」（35%）、「学食」（17%）、最も少なかったのが「学外食」（4%）との結果となりました。

お昼ごはんの費用について、学内（コンビニで購入または学食）の場合、「401円以上500円以下」が61.5%と最も高いのに対して、学外食の場合、「901円以上1000円以下」または「1001円以上」と答えた回答者がそれぞれ38.5%となり、全体として、「901円以上」が76.9%と高い値を示す結果となりました。

お昼ごはんの費用とアルバイトによる収入との関連性は特に見られませんでした。学年があがるにつれ学外で食べる昼食にかけられる費用が上がる傾向が見られました。

調査結果のポイント

(1) 実家に住む実践女子大生の96%がお昼ごはんにお弁当を持参。

1週間で最も多いお昼ごはんは、お弁当持参（44%）であった。住居形態との関係をもとにみると、実家に住んでいる学生の割合が71%と最も大きく、実家に住んでいる学生のうち、96%がお弁当持参との結果となった。（図1-1）（図1-2）（図1-3）

(2) 学内でのお昼ごはん費用は「401円以上～500円以下」が61%と最も多く、学外でのお昼ごはん費用は「901円～1000円」が38%と最も多い。

学内でのお昼ごはん費用は「401円以上～500円以下」（61%）が最も多く、学外でのお昼ごはん費用は「901円以上～1000円以下」（38%）が最も多い結果となった。学内と学外で、それぞれ最も多く回答された金額間には500円の違いがある結果となった。（図2-1）（図2-2）

(3) 4万円以上アルバイト収入があっても、9%の学生が学内でのお昼ごはん費用を300円以下に抑えたいと回答。

アルバイト収入額とお昼ごはん費用との関係をみたところ、アルバイト収入額に関係なく、学内では「401円以上～500円以下」、学外では「901円以上～1000円以下」が最も多く、学内、学外の両方において、全体と同様の結果となった。また、4万円以上のアルバイト収入額がある回答者の7%が、学内でのお昼ごはん費用を「300円以下」と回答している。（図3-1）（図3-2）

(4) 学内では学年関係なく500円以下、学外では学年が上がるにつれてお昼ごはん費用も上がる。

学年とお昼ごはん費用との関係をみたところ、学年に関係なく、学内では「401円以上～500円以下」が半数を占めた。学外でのお昼ごはん費用については、4年生では、全員が「901円以上」と回答しており、他学年（3年生76%、2年生58%、73%）と比較し高く、さらに「1401円以上」との回答が50%と半数を占めた。（図4-1）（図4-2）

調査結果について

<調査概要>

1. 調査対象： 実践女子大生1年～4年生（短大生含む、渋谷キャンパス在学学生）
2. 調査方法： 質問紙によるアンケート
3. 調査期間： 2015年5月14日
4. 有効回答者数： 52人
5. 回答者の属性：【実践女子大学生：学年】1年：29%、2年：23%、3年：25%、4年：23%、

本件調査担当

実践「ペルソナ」研究会

3年 阿部 芽生

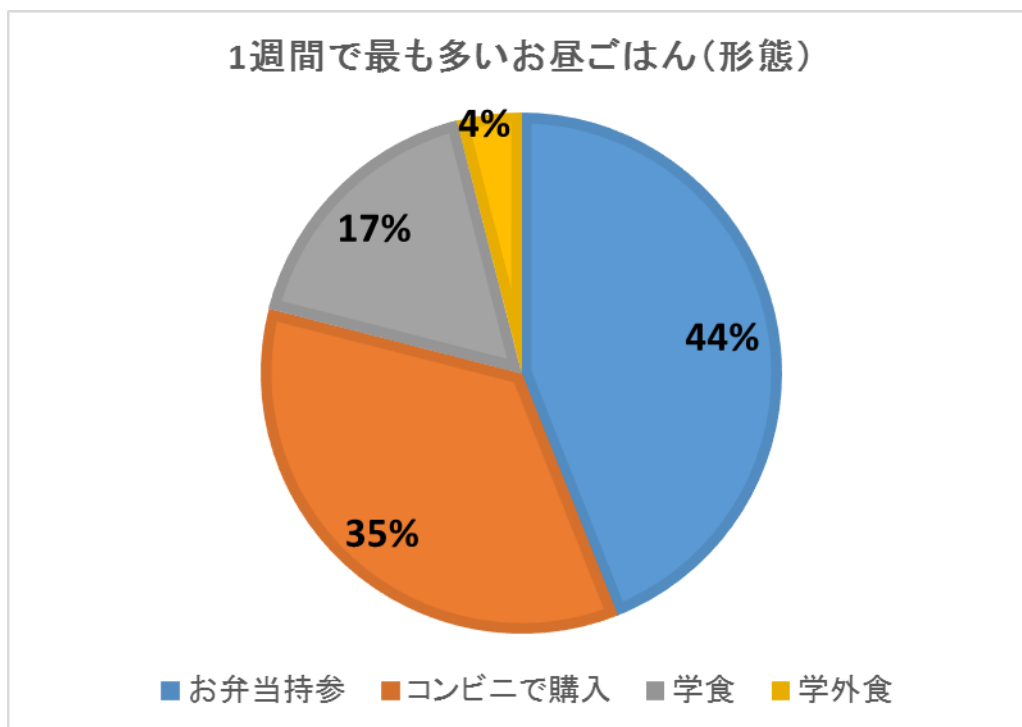
3年 五十嵐 実咲

3年 友安 杏理

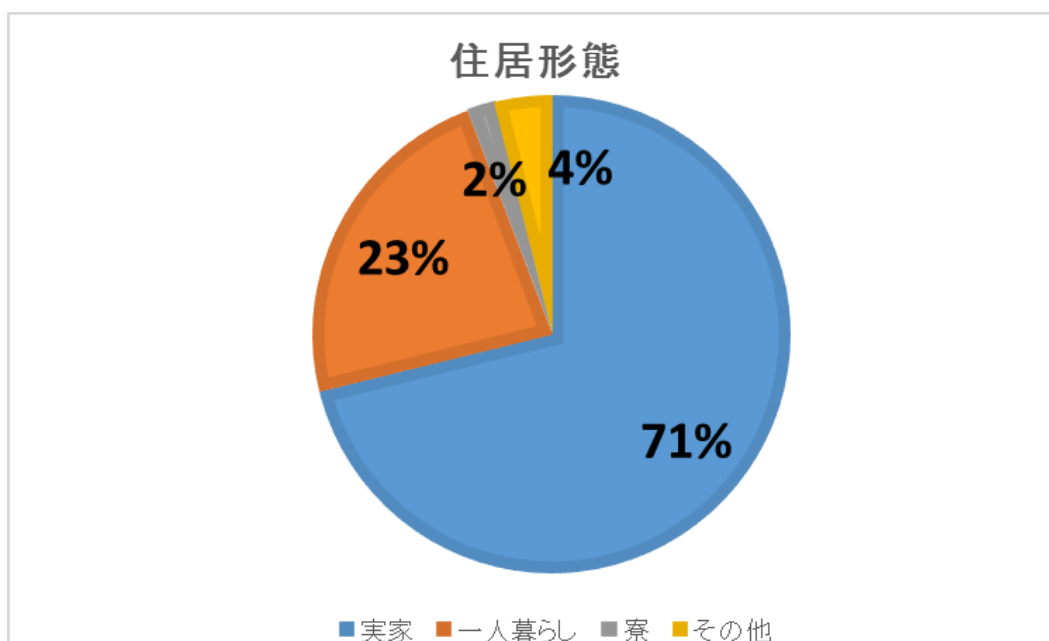
(1) 実践女子大生におけるお昼ごはんの実態（形態）

全体では、1週間で最も多いお昼ごはんはお弁当が44%、コンビニで購入したものが35%、学食が17%、学外食が4%となった。住居形態は、実家暮らしが71%と最も多い。次いで一人暮らしが23%、寮が2%、その他が4%となった。住居形態とお昼ごはんの関係を実家に住んでいる学生の96%がお弁当を持参しているとの結果となった。

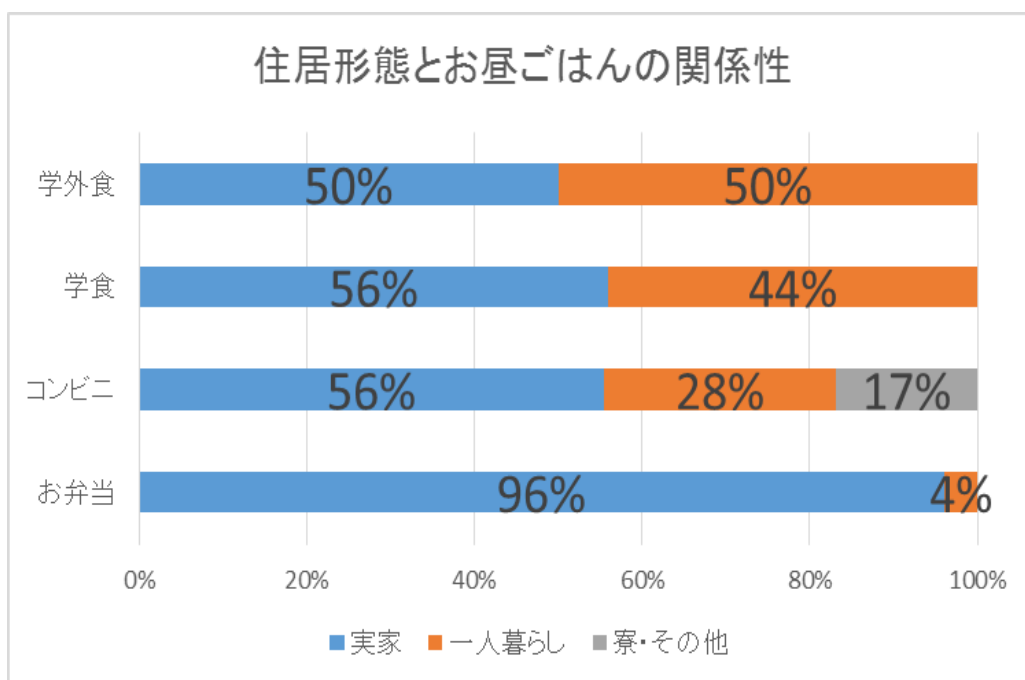
【図1-1】 実践女子大生におけるお昼ごはんの実態（形態）（n=52）



【図1-2】 実践女子大生における住居形態 (n=52)



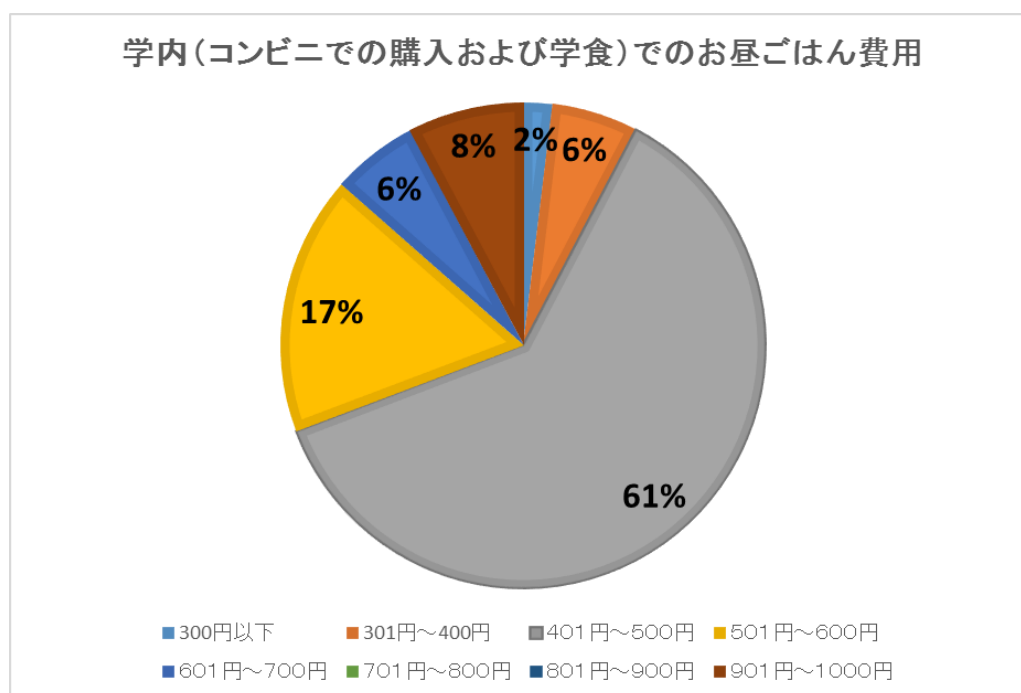
【図 1-3】 実践女子大生における住居形態とお昼ごはんの関係 (n=52)



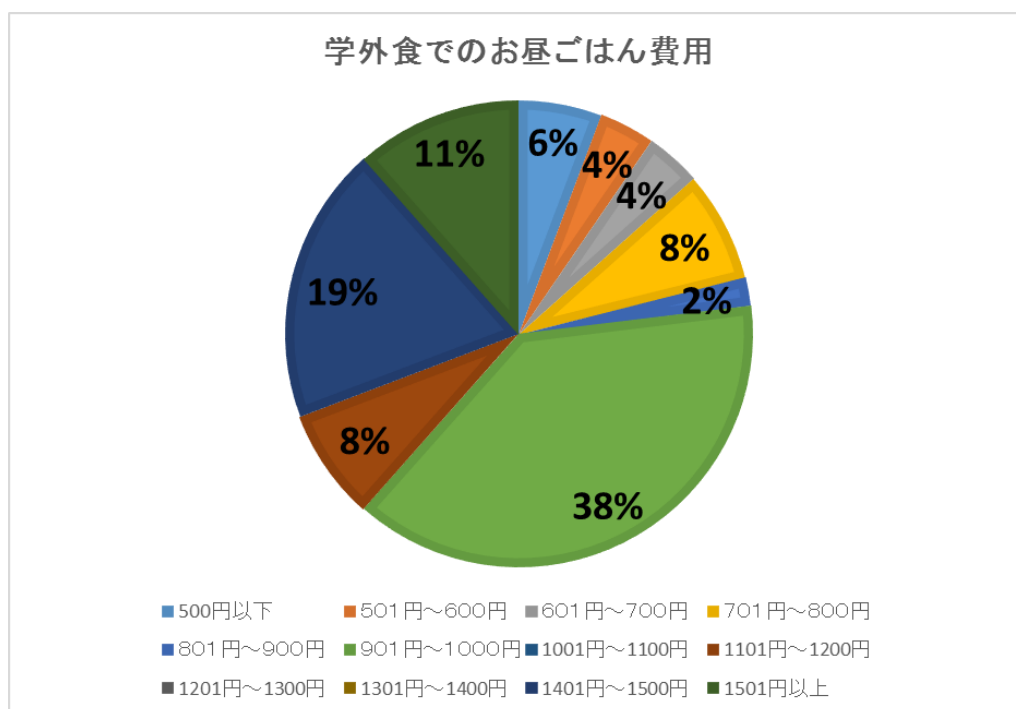
(2) 実践女子大生におけるお昼ごはんの実態 (費用)

全体では、学内でのお昼ごはん費用は「401 円以上～500 円以下」が 61%と半数以上だった。次いで、「501 円以上～600 円以下」17%と 600 円以下とする回答者の割合が 78%となる結果となった。学外では「901 円以上～1000 円以下」が 38%と最も多く、次いで「1401 円以上～1500 円以下」が 19%となり、「1101 円以上」とする回答者も 38%となる結果となった。

【図 2-1】 実践女子大生におけるお昼ごはんの実態 (費用 - 学内) (n=52)



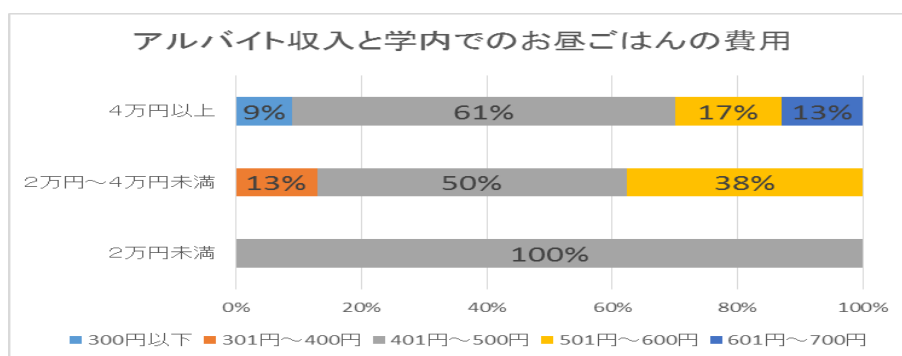
【図 2-2】 実践女子大生におけるお昼ごはんの実態（費用 - 学外）（n=52）



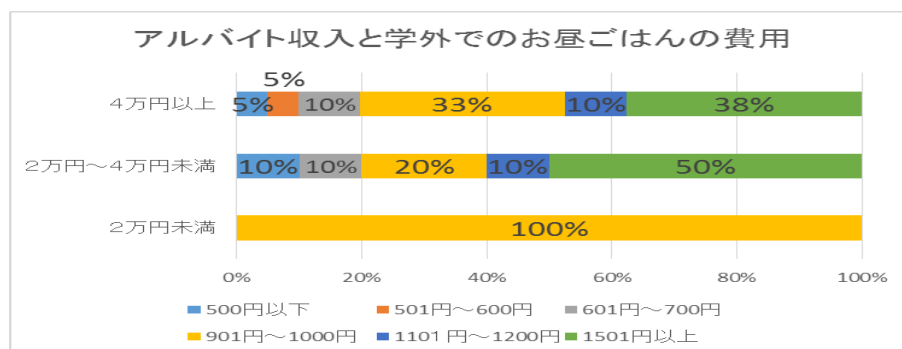
(3) 実践女子大生におけるアルバイト収入とお昼ごはん費用との関係

アルバイトをしている学生（67%）を対象として、アルバイト収入額とお昼ごはん費用との関係を見たところ、収入に関係なく、学内「401円以上～500円以下」、学外「901円以上～1000円以下」が共通して多い結果となった。また4万円以上のアルバイト収入額がある学生の9%が、学内でのお昼ごはんの費用を「300円以下」という結果となった。

【図 3-1】 実践女子大生におけるアルバイト収入と学内でのお昼ごはん費用との関係（n=35）



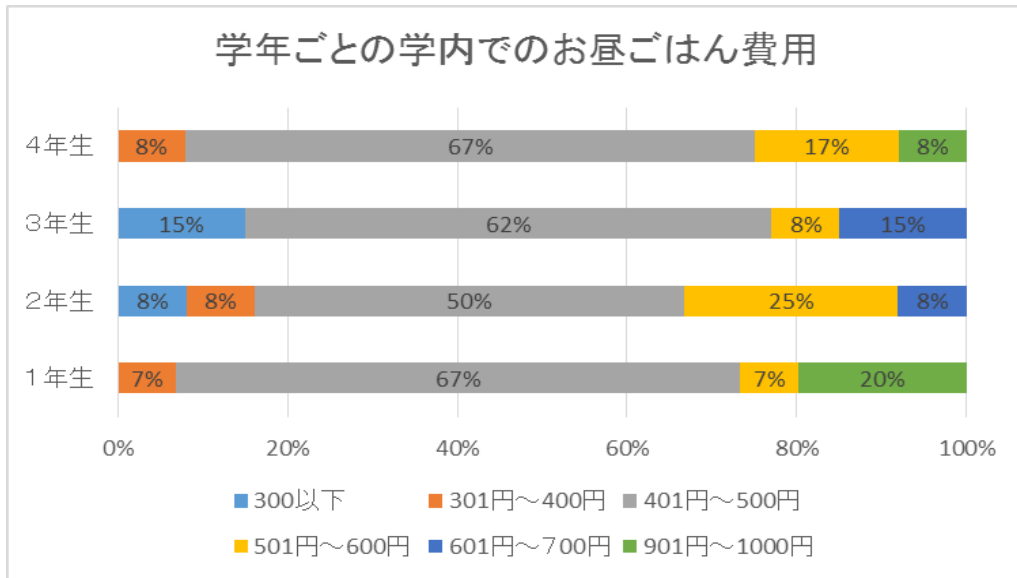
【図 3-2】 実践女子大生におけるアルバイト収入と学外でのお昼ごはん費用との関係（n=35）



(4) 実践女子大生における学年とお昼ごはん費用との関係

学年とお昼ごはん費用との関係をみたところ、学年に関係なく、学内では「401円以上～500円以下」が半数を占めた。学外でのお昼ごはん費用については、4年生では、全員が「901円以上」と回答しており、他学年（3年生76%、2年生58%、73%）と比較し高く、さらに「1401円以上」との回答が50%と半数を占める結果となった。

【図4-1】 実践女子大生における学年と学内でのお昼ごはん費用との関係 (n=52)



【図4-2】 実践女子大生における学年と学外でのお昼ごはん費用との関係(n=52)

